

●ゼロカーボン都市について
●交通ライフライン寸断時の対応について



近藤 芳人(辰の瀬戸)



◎本市は、平成26年9月に、全国に先駆けてCO₂排出ゼロ都市宣言を行い、さらに「令和5年度までに目標達成できる」と公言してきたが、本当に達成できるのか。

市長 このたび精査し直し、令和5年度までの目標達成ができないことが判明した。おわび申し上げる。今後は、省エネルギー対策や本市の特性を生かした再生可能エネルギーの活用を図り達成に向けてたい。

◎5月20日の豪雨で白石地区の崖崩れ箇所が危険とみなされ生月大橋が一時通行止めになった。この経験から生月大橋以外にも平戸大橋や大島度島の航路など、唯一の交通インフラが寸断された場合の対応に関して以下の気づきを得た。

- ①通行止め解除まで車内で過ごすことになったら、極寒、酷暑のときはガス欠になると命に係わる。ガソリンスタンドが夜間に開いていると安心。
- ②フェリーの欠航により、大島、度島を夜を過ごす必要はない人向けに待合所を夜間開放してほしいか。
- ③宿泊事業者と協定を結ぶのか。または避難所利用ができないか。

④「いついとき年休消化や欠勤扱いになる方もいる。特別休暇にできるよう、市から事業者に働きかけられないか。」

⑤深夜は防災メールの登録をしていないの人は防災メールの登録をしないだろうからHPを再三確認するしかない。RSS(HP)に新しい情報が更新された時点で希望者に通知が届く機能)を活用すべし。

総務部長 ①災害時、燃料供給等支援活動に関する協定を締結している長崎県石油商業組合平戸支部と、今回のような場合の適用について協議したい。

②そのようにしたい。
③長期の避難になった場合には、宿泊事業者と協定を結んで対応することになっているが、今回のような場合は対象外としている。仮設の宿泊所が必要であれば検討できる。

④雇用契約は、その事業所等の就業規則に基づき、雇用主と従業員の契約で取り決められているので市として特別休暇等の取扱いをお願いする立場にはない。
⑤RSSについて理解していなかった。早速業者と協議を始める。

●脱プラスチックストロー対策について
●ワクチン接種について
●教育について



井元 宏三(大地の会)



◎平戸市として、若い世代が多く活躍を始めた「かまぼこ業界」であるが、現在、ストローなどの使い捨てのプラスチック製品のマイクログラスチック化が問題視されており、今のままでは近い将来販売が出来なくなる可能性もある。「この問題に関しては、各事業者がそれぞれで解決して行く」という事は困難な問題であると思っております。国、県、市、一体となって「産業を守るため」「環境を守るため」にも、取り組むべき課題であると考えている。平戸市としてどう考えるか。

文化観光工部長 「伝統的な製法を用いた練り製品製造業者」が製造している入水蒲鉾は、本市の重要な特産品であると位置づけられており、ここに使用されているプラスチック製のストローについて、国、県、市、一体となって環境に配慮するため早急に取り組むべき課題であると認識している。

◎ワクチン接種受付に関し、住民の皆様から、「予約の電話があまりにもかかりにくい」という声を多く聞いている。対応に問題は無かったのか?
市民生活部長 やはり受付初日及び20日目は一斉に予約が入るため電話が

かかりにくい状況にあった。市としては、「高齢者用のワクチンの供給量は十分に確保されていること」、「予約枠は確保していること」が、市民へ十分に伝わっておらず、分かりやすい周知を行ってほしいはある程度防げていたと思っております。
◎平戸市内の高齢者ワクチン接種率はどのようになっているのか。
市民生活部長 5月末時点での高齢者の接種率は23.8%となっている。県平均16.2%より接種率は高い状況となっている。
◎平戸市の教育水準について、以前平戸市は長崎県全体平均より低いと聞いていたが、今の教育のやり方が変わってきた中、本市の教育水準はどのように変わってきたのか。
教育長 教科によって幾分問題はあるが、学力調査の総合得点では、小学校は県内トップクラスの成績であった。また、中学校においても、県内上位3分の1に入っている状況である。



●コロナ対策について
●ホームヘルパーやデイサービス職員
のワクチン接種
●平戸市出身の学生や障害者への支援



山崎 一洋(日本共産党)



◎私は3月議会の一般質問で、平戸市でも、高齢者施設でクラスターが発生しているから、高齢者施設の従事者のワクチン接種も医療従事者と同じく最優先にすべきだ、と質問した。部長答弁は「医療従事者の次の2番目に接種できるように、医師会及び医療機関と協議する」だった。協議の結果、高齢者施設の従事者は優先順位を上げて、2番目に接種が行われている、という認識が正しいか。

市民生活部長 議員が言ったとおり、2番目に実施している。
◎ホームヘルパーやデイサービスの職員さんから「私たちも優先的に接種してほしい」という声を聞く。ヘルパーさんなども高齢者施設の従事者と考えていたが、違うと聞き驚きだ。いつになるのか。
市民生活部長 8月を予定している。
◎8月では遅い。市長の考えは。
市長 県が集団接種を行っている。ヘルパーさんなどの接種をお願いできないか、県と協議したい。
◎障害者のみなさんに配慮するよう、厚生労働省も求めているが、平戸市はどう対応するのか。

市民生活部長 フォクスやメール等で相談を受け付けるほか、視覚障害者については点字を表記することや、サービス業者との連携を図って接種を行うことを検討している。

◎全国の自治体が住民に対して様々な支援を行っている。アルバイトや親からの仕送りが減るなど、学生の暮らしが厳しくなっている。市民団体が食料無料配布を行うなどの支援がひろがっている。県内でも、南島原市が地元出身の学生に、米や特産品の無料配送を行っている。昨年は6277人の学生に送った。今年も予算340万円で行っている。平戸市出身の学生の実態をつかっているか。
市民生活部長 把握はしていない。
◎平戸市も、支援を行うべきだ。
市長 南島原市がどう行っているか、情報を得て、対応できるかどうかの研究をさせていただきたい。

◎本市の文化振興についての考え方
●消防団員の確保・団員報酬について



松尾 実(市民クラブ)



◎コロナ禍で生活の制限がされる中で、文化活動も思うようにならないと思うが、行政は文化振興についてどのような考えを持ち、どのような捉え方をしているのか。
市長 文化協会団体と公民館利用団体を中心に、市民の自主的な活動により平戸市美術展覧会の開催や優れた文化芸術活動に触れる機会を提供する事業に取り組んでいる。今後は、各活動団体の交流を促進し、活動の活性化と拡大につながる事業を展開していきたい。

◎各文化協会団体の活動の現状、会員の動向、人材育成、予算の在り方など、問題は多岐にわたるのではないか。
文化観光工部長 市美術展覧会への積極的な出展、絵画や書道、創作活動の推進を教育委員会とも連携して取り組む。会員数は、横ばい状況で新規会員の加入や広がりはない。人材育成は、各文化協会や文化活動に取り組む団体との意見交換や先進事例等の研究など、活動の更なる充実につながる事業へ取り組む。優れた

文化芸術に触れる機会の提供を中心に事業を継続する。また、毎年定額の予算ではなく、めり張りのある事業展開となるように努める。
◎消防団の車両において、平成29年3月に道路交通法が改正され、普通免許では運転できなくなった車両があると思うが。(改正前車両、総重量5t未満で運転可能であった資格が改正後には、3.5t未満へ変更)
消防長 運転できない(3.5t未満)普通免許所有者が13名、全体で3.7%程度。当面消防団活動には、支障はないと考えている。
◎今後、消防団員の確保と非常時の早急な対応のため、中型免許取得の助成などが必要と思われる。また、団員報酬についても、他市よりも安いのではないかと。平戸市2万5千円、松浦市3万6千円、県下13市の中で10番目のことだが、せめて松浦市くらいの支給にすべき。支給は、分団ではなく、個人にすべきと思うが。
消防長 今回、国からも(報酬改善)通知が来ている。分団での検討委員会を立ち上げている。